

地域づくり実践塾 事業報告書

令和5年2月5日

ブロック名：宮崎東諸県ブロック ブロック代表者名 鶴羽 浩

事業目的：青島から学ぶ地域づくり「全国大会への準備」

名 称：第1回 地域づくり実践塾	
実 施 日：令和4年10月7日金曜日	実施時間：3時間
実施場所：みやざきNPO協働支援センター	
対 象：会内研修（野島神社権禰宜、河野克武さん、木花・青島 活性化プロジェクト、支配人黒木幹夫さん	参加人数：4人
<p>実施内容：お二人に全国大会の会場となる「青島」についてお聞きした。</p> <p>（野島神社権禰宜、河野克武さん）</p> <p>野島神社は、浦島太郎が辿り着き祀られたという伝説のある神社で、青島から南に約8キロにあります。河野さんは、野島神社の権禰宜（ごんねぎ）として、神社のPR活動をおこなっています。具体的には、御朱印の発行（切り絵で作成されたものなど4種）、神楽（11月23日）の伝承支援、付近がサイクリングの通り道になっていることから、サイクリングスタンドの設置、お守りの販売など、サイクリストを支援する神社としての役割をになっています。ちなみに、高千穂などの宮崎県北は「夜神楽」、宮崎県南は「昼神楽」と呼ばれています。神社では、300年前から伝わる神楽面をつかっています。また、野島地区（約100世帯）は70代が若手と呼ばれる程、高齢化が進んでおり、同地域の活性化を進めるため、地域で竹灯籠をつかった行事や米づくりに始まる農業体験などをおこなっています。その活動は3年半前から毎日、Facebook、インスタグラムに投稿されています。お話のなかで、神社経営、地域経営を担っており、発想力の豊かさ、行動力など、魅力を感じました。</p> <p>（木花・青島活性化プロジェクト、支配人黒木幹夫さん）</p> <p>一方、宮崎市自然休養村センター「このはなの湯」支配人、黒木さんは、先日、指定管理者として宮崎市へのプレゼンテーションを終えたばかり。資料を拝見させていただきました。500ページもの分厚い資料には、500項目の改善をおこない、来場数を当初の年間45,000人から、15年間で年平均103,000人と、2.3倍伸ばしてきた実績に裏打ちされた経営戦略を垣間見る思いです。このはなの湯、支配人黒木さんとともに[/caption] 具体的な取組としては、地元バス会社からの誘致を図るため、車による乗り入れ数を2年間一日も欠かさず統計を取り、データによる提案をおこない、バスの迎え入れができたことなど、さまざまな取組が成果につながっている事例を紹介いただきました。このはなの湯は、温泉施設として地域の方に喜ばれているだけでなく、コミュニティの場としても機能しています。また、青島各地域の自治会と連携して災害時の避難場所としての機能も果たしています。</p>	

す。そのために日頃から、各自治会と連携して、イベントも開催しています。その一例を挙げると、イベントでの行事は、各自治会がそれぞれのテントを持参し設営まで各自おこなうなど、双方向のコミュニケーションがあることが伺えます。その他、この地域での存在価値を高めることが住民の幸せにつながると考え、提案活動や青島地域には8つの温泉施設があることから、青島エリアの活性化のため「青島温泉郷」構想を発信するなど、地域からの提言活動もおこなっています。

写真資料：



左側より河野克武さん



右側が黒木幹夫さん

所 感：両氏とも、地域づくりを進めていく上で、施設経営や地域経営という面からも、多くの気づきやアイデアをいただきました。それは、地域づくりを行政や地域の方々、同業種など、さまざまな方と連携することの大切さです。これを、全国大会につなげていくか、なんだかワクワクしてきました。

名 称：第2回 地域づくり実践塾	
実 施 日：令和4年10月27日木曜日	実施時間： 1時間30分
実施場所：青島地区地域センター	
対 象： 会内研修（青島地域振興協議会の椎会長）	参加人数： 4 人
<p>実施内容：</p> <p>青島地域のまちづくりについて、お話された内容の一部を紹介します。（順不同）</p> <p>①渚の交番 全国で初めての取組、パトロール、台風後のがれき処理、水難事故への対応など</p> <p>②住民のための送迎車の制度（公民交通と話される） 60名の会員。買い物や病院への送迎 1回1,000円（人数割り）4人で利用すると250円。</p> <p>③墓地の管理 年4回の清掃。墓参りが楽しみとの意見が上がっている。</p> <p>④中学校のサーフィン部新設</p>	

青島の小学校 24 名、中学校 10 名。部活がないため、地区外の中学校へ流出していた。県などに交渉し、中学校の部活として全国で初めて青島中学校にサーフィン部が発足。60 名が転校。他市から 5～6 名の参加を経て、こどもためのための青島サーフィンカップを開催した。

⑤水難事故対策

水難事故が繰り返されることから、青島ライフセービングの方に夏休みをつかって、水泳教室開催。全員が泳げるように指導していただき、水難事故を防ぐ活動をおこなっている。

⑥インフラの活用への提案

青島駅など公共施設の運営を自治会組織で運営したいと考えている。地元が運営することのメリットを活かしたい。

(新しいまちづくりへ向けて)

①滞在型ホテル 11 月オープン。アメリア西海岸をイメージ。IT 企業の保養施設。キッチンやプールも 4 棟各部屋併設。3 年前に調印。町づくりのためにと土地を提供。

②サーフィン移住者とともに

サーフィン移住者の自治会への参加を促している。まちづくりに参加いただきたい。住民の皆さんとともに、地域の課題と一緒に取り組みたいと考えている。

(今後の方向性)

・まちづくりの理想を掲げて

みんなで助け合い、支え合う町づくりへの希望、皆が喜ぶ地域づくりへ、大きなランドデザインが必要とのこと。

写真資料：



左側が椎会長

所 感：

1, 行政と自治会組織の役割分担について、学ぶ。地域づくり団体がそこで、連携や協働していくことが、地域づくりを深化させるに繋がる。要はやり方次第、地域づくりへの無限の可能性を感じた。

2, さまざまなアイデアを凝らし、地域を豊かなするための取組事例を聞き、発想の限界はないこと、情報収集と実行力の必要性を感じた。

3, 意見の違う人、老若男女、移住者など、多様な人達と共に生きる地域をつくることへの道のりは遠い。しかし、諦めずに、人と人とのつながり、世代を越えて取り組むことが大切。

名 称：第3回 地域づくり実践塾	
実 施 日：令和4年11月18日金曜日	実施時間： ※全体の時間を記入してください
実施場所：みやざき NPO 協働支援センター	
対 象： 会内研修（宮崎県建築士会 会長 松竹昭彦さん）	参加人数： 3 人
<p>実施内容：</p> <p>青島地区の顔のひとつ「青島ビーチパーク」について、開所に深く関わった宮崎県建築士会の松竹さんに、お話を伺った。始まりは7年前、宮崎市による青島地区の開発を進めるなか、外部関係者としてかかわり、ゼロ予算のなかからスタート。</p> <p>予算もないことから、まず地域資源と人的資源を見直した。当時海の家が解体されたことから、その廃材を活用した新たな施設の材料する活動からスタート。仲間が少しずつ集まりことで、市も積極的に動くようになった。そこに青島漁協の青年部、建築士会のメンバーが活動を活性化させたが、地元商店街は動かない（店主によるとそこそこ儲かっているかとの危機感がない）。</p> <p>いろんな活動を続けるなかで、「青島ビーチパーク」プロジェクトを任された。コンセプトづくりからオープン、その後、フォローアップとして同会にかかわり、当初は年間3万人だった観光客も、「青島ビーチパーク（宮崎市観光協会 WEB より）」ができたことで、10万人に増加（コロナウィルス感染症の影響前）させることができた。これから、行政は徐々に予算も含め、支援の手を緩めていく。</p> <p>これまでの7年間の関わりのなかで、地域づくりの推進のエンジンは地域の人による活動が理想。支援者として、自立を妨げない関わりを考える時期に来ているとのこと。</p>	
写真資料：(撮影を忘れました)	
<p>所 感：</p> <p>私たちのネットワーク協議会メンバーの全国大会への思いを理解いただき、カギとなる7名の関係者の名前を挙げて紹介いただいた。これから、ご紹介いただいた皆さんにお話を伺い、全国大会への準備を進めていきたい。</p>	

名 称：第4回 地域づくり実践塾	
実 施 日：令和5年1月15日 日曜日	実施時間： 45分
実施場所：青島神社 社務所	
対 象：会内研修（青島神社 長友安隆宮司）	参加人数： 4 人
<p>実施内容：</p> <p>青島の地域づくりへの関わりは、平成16年、青島地区を観光視点で見直すという審議会委員に選任されたことから始まった。委員会では、年4回～5回同地区の活性化の基本計画を約12年間にわたり推進した。スタート時の行政が計画案を準備したが、委員の反対で「地に足のついた活動をしよう」と、地域独自の新たな道を模索することとなったとのエピソードも聞かせていただいた。地区での活動は、ごみ拾いからスタート。キャンドルナイトなど多数のイベントも実施するなどの取り組みをした。その後、大手広告代理店によるまちづくりが始まったが、途中で、「コーヒー」「助成金」による街づくりから脱却しなければ、街はよくなりえないと気付いた。</p> <p>民間手法を取り入れ、若者のスタートアップの場所として場の提供をすることで、サーフィン移住などによる若者の流入が増えてきた。青島ビーチパークなど、さまざまな地域づくりが進んできた。</p> <p>今後は、教育によるまちづくりに力を入れたいとのこと。例えば、青島中のサーフィン部ができ、同中学校のPTA8割が移住者という状況のなか、自治会の役員が1年交代がルールとされているが、課題が深掘りできないこと、こんな点からも改革が必要だと感じている。子供の成長に地域が投資することなども視野に活動を続けていきたい。</p> <p>課題としては、地域の土地単価が5倍に上がる、海外資本の流入、商工会34社の会員の高齢化。特に、商工業者については、事業承継への中間組織づくりが必要だと考えている。解決のカギはITを利用した技術革新であると考えており、具体的なイメージについてもお話いただいた。</p> <p>（感想）</p> <p>青島の地域づくりについて、観光から経済、教育、国際社会の中の青島、さまざまなテーマでお話をいただきました。地域づくりとは、こういうことなんだと気付かされた取材でした。</p>	

写真資料：



右端が長友宮司

所 感：

青島の地域づくりについて、観光から経済、教育、国際社会の中の青島、さまざまなテーマでお話をいただきました。地域づくりとは、こういうことなんだと気付かされた取材でした。

次年度の計画：

引き続き、地域住民や漁協関係者、商工会会員など、さまざまな方と会い、全国大会で何ができるのか、どんな貢献ができるのか、青島を素材に考え、具体的なプログラムをつくっていきたいと思います。